

学校法人 睦美学園 事業報告

(2024年度)

1 法人概要

①名称

学校法人睦美学園
設立 昭和60年12月23日
理事長 杉本圭隆

②住所等

大阪市阿倍野区阪南町3丁目22番8号
電話 06-6624-0557
FAX 06-6624-0556
ホームページ <http://mutsumi.ed.jp>
メールアドレス kids@mutsumi.ed.jp

③法人の沿革

1923年4月1日	親和幼稚園として開園 初代園長 杉本タツ
1925年3月23日	睦美幼稚園として認可を受ける
1962年10月1日	新園舎 本館 鉄筋コンクリート造3階建 竣工
1965年3月23日	睦美幼稚園 初代園長 杉本タツ 死去 睦美幼稚園 園長 杉本知栄子 就任
1984年12月26日	学校法人 睦美学園 設立・認可 初代理事長 杉本全隆
1985年3月8日	睦美学園 初代理事長 杉本全隆 死去 睦美学園 理事長 杉本知栄子 就任
1987年7月13日	新園舎 別館 鉄骨2階建 竣工
2012年12月23日	睦美学園 理事長 杉本知栄子 退任 睦美学園 理事長 杉本佳隆 就任
2013年4月1日	むつみ幼稚園 園長 杉本知栄子 退任 むつみ幼稚園 園長 杉本圭隆 就任
2014年10月23日	本館 耐震化工事
2016年4月15日	新園舎 新館 鉄骨造2階建 竣工
2018年4月1日	幼稚園型認定こども園に移行 園名を「むつみこども園」に 異年齢保育開始
2022年4月1日	2歳児クラス「あんずのおうち」開始 給食室「おだいどころ」新設
2024年4月1日	1歳児クラス「あんずのおうち」開始 「町とアトリエ」事業立ち上げ

④設置する学校

むつみこども園

設立 大正12年3月23日

定員 138名

園長 杉本圭隆

⑤保育方針

一人ひとりが自分らしく暮らし、遊び、働くために、まちのみんなで考える。

そんなまちづくりに取り組んでいます。

＜大切にしている姿＞

自分らしくある・自分でかんがえる・夢中になる・クリエイティブである

チャレンジする・おもしろがる・自分たちのまちづくり・いっしょにかんがえる

心地よく暮らす・思いっきり遊ぶ・やりがいを持って仕事する

⑥園児・スタッフ数の推移

園児数

	2023				2024				2025									
	1号	2号	3号	合計	1号	2号	3号	合計	1号			2号			3号			合計
1歳 2歳 3歳 4歳 5歳	実員				実員				実員	利用 定員	認可 定員	実員	利用 定員	認可 定員	実員	利用 定員	認可 定員	実員
	—	—	—	—	—	—	10	10	—	—	—	—	—	—	10	10	15	10
	—	—	15	15	—	—	15	15	—	—	—	—	—	—	15	15	18	15
	16	10	—	26	5	15	—	20	5	5	25	15	15	10	—	—	—	20
	8	10	—	18	10	16	—	26	3	3	25	17	17	10	—	—	—	20
	20	11	—	31	7	11	—	18	9	9	25	17	18	10	—	—	—	26
合計	90				89				91									

スタッフ数

	2023			2024			2025		
	常勤	パート 派遣	合計	常勤	パート 派遣	合計	常勤	パート 派遣	合計
教員	18 (うち育休2)	8	26 (2)	18 (うち育休2)	9	27 (2)	18 (うち育休1)	8	26 (1)
職員	3 (うち育休1)	8	11 (1)	4 (うち育休2)	7	11 (2)	5	5	10
合計	37 (3)			38 (4)			36 (1)		

⑥役員・評議員

役員 理事6名、監事2名（任期：2020年12月23日～2024年12月23日）

役職	氏名	職業等
理事	杉本圭隆	学校法人 理事長
理事	北島孝通	学校法人 理事長
理事	植村まゆみ	認定こども園 副園長
理事	伴現太	一級建築士
理事	永淵泰一郎	大学 准教授
理事	杉本さやか	認定こども園 保育教諭
監事	桑山順二	有限会社 代表取締役
監事	背尾康裕	認定こども園 園長

評議員13名（任期：2024年12月23日～2028年12月23日）

役職	氏名	職業等
評議員	杉本圭隆	学校法人 理事長
評議員	北島孝通	学校法人 理事長
評議員	植村まゆみ	むつみこども園 副園長
評議員	伴現太	一級建築士
評議員	永淵泰一郎	大学 准教授
評議員	杉本さやか	認定こども園 保育教諭
評議員	和田勝己	会社員
評議員	平川隆啓	デザイン専門学校 講師
評議員	中西克己	プロデューサー・デザイナー
評議員	杉本勝宏	会社員
評議員	田辺昌吾	大学 准教授
評議員	宗田明子	元 小学校 教員
評議員	市村要	鮮魚店 店主

⑦理事会・評議員会の開催状況

日程	議案・出席者数
2024年5月24日	評議員会（出席評議員：8名）・理事会（出席理事：5名、監事：2名） 1）2023年度 事業報告および決算について 2）2025年度以降の事業計画について 3）学園運営安定化に向けた資金融資について 4）車両賃貸契約について 5）私学法改正に係る寄附行為改定に伴う理事・評議員・監事の任期について
2024年12月23日	評議員会（出席評議員：8名）・理事会（出席理事：5名、監事：2名） 1）寄附行為の改正について 2）役員（理事・監事）および評議員の任期延長について
2025年3月21日	評議員会（出席評議員：8名）・理事会（出席理事：5名、監事：2名） 1）評議員の選任について 2）2024年度 補正予算について 3）2024年度 監査報告書の添付免除申請について 4）2025年度 予算および事業計画について 5）諸規定の改訂について

2 評価項目及び取り組み状況

重点的に取り組む目標・計画 「つながる・深まる」

評価項目	取り組み状況
コンセプトと実践がつながる	＜計画＞むつみが大切にしたいことは徐々に浸透してきているが、よりわかりやすく、いろんな人に伝えていくために整理し直していく。また、保育課程や指導計画等のあり方見直し、実践レベルにおいてもコンセプトがつながっていくような仕組みづくりを行う。
	＜報告・評価＞むつみが大切にしていることをもう一度見つめ直し、言葉にしていくことに向き合った一年だった。こどももおとなも自分らしく生きるとはということか、心地よく暮らすこと、思いっきり遊ぶこと、やりがいを持って働くことについて、スタッフで考える機会を持った。それらをもとに、遊びマップづくりやくらしの保育計画など、実践につながる仕組みも作った。一方で、コンセプトが誰にとってもわかりやすく伝わる方法や、ねらいを深めたり、手立てに落とし込む部分に課題が残った。
保育と向き合う	＜計画＞遊びがつながり、深まっていく。そのためには大人の適切な関わりや環境づくりが欠かせないが、その背景として、こどもの姿の適切なみとりやねらい、計画、実践、評価のサイクルがシステムとして日常に組み込まれている必要がある。そのためのシステムづくりを継続的に取り組む。
	＜報告・評価＞日々の記録の共有や、遊び、くらし、室内および園庭の環境づくりのための時間を確保したことで、こどもの姿や遊びそのものの計画や実践に費やす時間が増加した。みんなで見守る意識が園全体で強くなっているからこそ、誰がどの部分を担当して考えているのかわかりにくいといった難しさがあるが、コミュニケーションを意識しながら、今後も改善に努めていきたい。
身体と向き合う	＜計画＞くらし方を自分自身で意識する。身体を十分に動かす。怪我を防ぐことを自ら意識する。生きるために食べる。ゆっくり休む。新たに迎え入れる1歳児を含めた園全体での身体を意識したしかけづくりに取り組む。
	＜報告・評価＞心地よくくらすために意識したいポイントを整理し、それをもとに月ごとの計画を立てていった。視点を整理したことで、一人ひとりのくらしを広く見渡すことができるようになり、スタッフ同士の見方の違いにも気づき、継続して考える土台ができた。特に「身体を動かす」ことについてはプロジェクトを立ち上げ、無意識に身体を動かせる仕掛けづくりや、楽しさに気づけるような活動を日々のくらしの中に組み込んでいった。

余裕のある保育	＜計画＞長時間の保育が日常化する中で、こどもたちがゆったりできる場所や時間の確保が欠かせない。また、スタッフにとっても休むための時間や書き物に集中する・話し合いをするための時間を確保し、誰にとっても公平なシステムづくりに努めたい。 ＜報告・評価＞特にまちでは、保育のシステムが大きく変わる中で、時間確保のためのシフトづくりに試行錯誤を重ねた。連携の難しさや、こどものくらしの不安定さなど課題もあったが、その都度ミーティングを行い改善を図ったことで、少しずつ余裕のある時間が生まれてきた。こどももおとなもゆったり過ごせる環境づくりに向けて、一歩ずつ進んでいる。
保護者とともに	＜計画＞こどもの遊びのおもしろさへの保護者の理解は高まりつつある一方で、働き方や保育ニーズも多様化し、保育のことを知ってもらうには工夫が必要である。保護者とともにこどものことを考えるしかけを増やしていきたい。 ＜報告・評価＞くらしや行事のあり方を見直したことで、保護者との対話の機会が増え、こどものことを一緒に考える風土が少しずつ育ってきた。くらし・おうち懇談会の定着に加え、参加率も上がってきている。また、アップデート説明会をきっかけに、保護者と園がともに園運営や研修、活動の企画を行う「おとな町内会」や交流の場「おしゃべりサロン ごはん会」がスタートするなど、協働や交流のかたちも広がっている。
町とともに	＜計画＞むつみのことを知ってもらうきっかけをさらに増やしていくとともに、園内での遊びからつながってこどもが町の活動に参加したり、いろんな人にむつみに入ってきてもらうなど、双方向での町とのつながりを増やしていきたい。 ＜報告・評価＞まちでのくらしやしごとの一環として、出かけていって交流したり、園に来てもらって教えてもらうなどの機会が増えた。また、「町ぐるみ」などのイベントや小学生を対象とした居場所づくりを通して、むつみのことに興味を持ってもらう機会も増えている。園内でプロジェクトを立ち上げ、今後も園やアトリエから様々な企画を立ち上げる予定である。